

# まきび教育支援だより

岡山県立倉敷まきび支援学校 平成28年2月29日（月）発行



## 校長あいさつ

「まきび教育支援だより」は、開校2年目の4月に発行され、そのときの「校長あいさつ」では、開校の経緯、本校のミッション、今後の活動への決意などを示しています。

さてその成果ですが、校内では、本校の子どもたちへの教育の体制作り、教員の指導力の向上等に向けた取組を続けてきました。担任全員研究授業、外部講師を招へいしての校内研修、理療や作業の専門家からの指導等では、ある程度の成果はあったように思いますが、この取組は終わりのない永遠の課題であり、今後も継続していきます。

外部に対してのものでは、学校公開による本校への入学を考えている人への情報提供、電話相談、来校相談など様々な形で教育相談、参観日等を利用しての福祉に関する懇談会、小中学校や他の特別支援学校等も含めた公開講座、高等部2年生やその保護者のみなさんを対象に福祉サービス等の説明をする地区別懇談会など、精力的に活動した結果、基盤が整備され、情報発信もできたように思います。

こうした取組は、最終的には、子どもたちの自立と社会参加につながらなくてはなりません。今後、検証を加え、活動の精選・追加、改善をし、さらによいものにしていきます。

### 高3移行支援会議

18歳になり、卒業すると学校から事業所へ環境が新しく大きく変わります。仕事面、生活面、余暇面等でいろいろな機関が連携してサポートしていくための話し合いの会が地域ごとに開催されました。

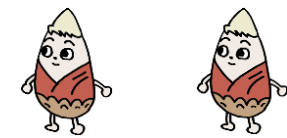
『夢に向かってまっすぐに』 今後の活躍を期待しています。



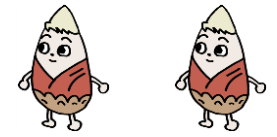
### 支援センター

保健室の南側に支援センターがあります。みなさんご存じですか？

保護者の方から、家庭で困っていることや各機関で共有して欲しいことなどをコーディネーターが聞いたり、学校や相談機関等の関係者が集まってケース会議を行ったりする場として使用しています。



## 地域の応援



### まきび連携委員会福祉班の取り組み

福祉班班長 永田 拓  
(真備地域生活支援センター 所長)



いつも大変お世話になっております。福祉班の班長を務めております永田です。今年度のまきび連携委員会福祉班は、多様化する障がい福祉サービスや複雑な福祉制度を理解することで保護者の皆様の子育ての可能性を少しでも広げていただくことを目指して取り組んでまいりました。

今年度、新たに行った取組は大きくわけて2点ございます。

まずは「学習会」という形で興味のある内容に絞って参加者の皆様と一緒に学ぶという機会を作りました。例えば「グループホーム」という所はどんなところでどんな支援が受けられるのか写真などを用いて皆さんで共有する時間を設けました。また休日の過ごし方について、実際の支援者でもあるヘルパーさんに来ていただき現状や問題点を教えていただく機会を作りました。参加した保護者の方々からは自分の子どもの将来を考え、いろいろな可能性があることがわかり、幅が広がったという意見をいただきました。



個人懇談に合わせて次に、「出張相談会」ということで、私が所属する「真備地域生活支援センター」の職員が学校に出張させていただき、普段感じている不安や疑問などを聞き、一緒に考えるという時間を設けさせていただきました。実際に相談した方々からは「相談支援事業所に電話するのは勇気が出なくてなかなかできなかったが、相談していいのだと思えました。」などの前向きな意見が聞かれました。

私は、保護者の方に寄り添って一緒に悩みを共有したり考えたりできるような取組を学校の中でしてみたいとずっと考えていました。この一年はある意味私の夢が叶いました。これも私の提案を前向きにとらえ応援して下さった倉敷まきび支援学校の先生方のお陰です。今後もこのような取組を継続していき、保護者の方に「この学校でよかった」と卒業式の時に思ってもらえるようなお手伝いができたらと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 本の紹介

「あたらしい ほうりつの本」 著：又村あおい  
社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会

